

発達・教育相談室の取り組みと今後の課題と支援の方向性について

発達・教育相談室 相談員

五十嵐 元子

昨年7月から、発達・教育相談室が開室されました。地域の園や学校の先生方、専門機関の職員の方々と子どもの発達や障害、保育と教育の現状を話し合い、そこでニーズを捉え、相談室で支援できることを考えていく、そのような姿勢で約半年間、取り組んできました。その取り組みの内容を①相談による支援、②研修会や勉強会による支援に分けて紹介し、そこから得た課題と今後の相談室の方向性について、記していきます。

発達・教育相談室の取り組みの内容

①相談による支援

発達・教育相談室では、園や学校の先生方を対象として、相談員が現場へ訪問し、先生方と共に、疑問に思っていること、悩んでいることについて、一緒に考えます。この相談を訪問相談と呼んでいます。現在、白梅幼稚園の先生方が積極的に利用してくださっています。相談の申し込みがあると、相談員は園のクラスに入り、午前中の活動から昼食時間まで、保育を観察し、子どもたちが帰った後、午後の時間に先生方と話

し合いをします。

昨今、全国的に園や学校で、障がいを抱える子ども
の他に、障がいを抱えているかもしれないけれども、そ
の見極めが難しいお子さんが増えていると言われてい
ます。クラスにそうしたお子さんが複数いることが珍
しくなく、現場の先生方がクラス運営に非常に困って
いることが報告されています（木原、2006）。しか
しながら、そうした困難な状況は、障がいを抱えてい
る子や見極めが難しいと言われる子がいるために生ま
れてくるものではありません。遊びや活動を通して、
一人ひとりの子どもと先生が関わる中で、問題とされ
る状況が生じてくるのです。それを考えれば、障がい
の有無に関わらず、一人ひとりの子どもを丁寧に理解
した上で、どのようにすれば活動や遊びを楽しむこと
ができ、そこにいる大人と子どもがより豊かな関係を
培うことができるのか支援の焦点となります。それ
が、発達・教育相談室が大切にしている視点です。

発達・教育相談室を活用して下さっている白梅幼
稚園は、子ども一人ひとりの遊びと仲間関係を大事に
しているとお聞きました。その保育の考え方に相談
員は共感を覚え、相談活動において、一人ひとりの子
どもを大切にしたいクラス作りを意識しすすめてまし
た。その中で、先生方には「子どもの成長や変化を改
めて感じることができた」「子どもを見る視点が広

かった」「今後の保育のヒントが得られた」等の感想
を頂いています。

園や学校の先生方を対象にする他に、保護者の相談
も行っていきます。これは、保護者の方に相談室に来て
もらって、子どもを育てる中で悩んでいること、心配
していることについて、話を聞いていきます。そし
て、必要に応じて、お子さんも一緒に来室してもらい
ます。これは、お子さんの遊んでいる姿を観察し、そ
のお子さんの発達の特徴をつかみ、保護者が悩んでい
ることについて理解を深めるためです。さらにそのお
子さんの得意とすることを捉え、具体的にどのような
関わっていけるかを保護者の方と考えます。保護者
の中には、「話を聞いてもらって、気持ちが落ち着き
ました。」「明日からできることが見つかりまし
た。」と言って、相談室を後にする方がいます。相談
員もこの言葉を聞いて、ほっと一安心です。その一方
で、保護者の方が常に子どもの成長を気にし、心配や
不安を抱え、胸の内に秘めていることが分かります。
そのほとんどが、子どもとうまく関わっていないので
はないかと自分を責めています。発達・教育相談室で
は、そのような保護者の気持ちをうけとめ、子どもと
の関わりに自信と展望が少しでも持てるように支援し
ていきたいと思っています。

② 研修会や勉強会による支援

発達・教育相談室では、先のニーズの聞き取りからテーマを設け、白梅学園大学の教員に講義を依頼し、地域の園や学校、専門機関の先生方を対象に、研修会を実施いたしました。第1回目は相談室室長の市川奈緒子准教授に「気になる子の対応と保護者支援」に關して話していただきました。地域の幼稚園・保育園の先生方と共に「気になる子どもとその保護者」について理解を深めることができました。第2回目は相談室を支えてくださっている専門家チームの一員である牧野晶哲先生に「幼保小、そして家庭との関係づくりと連携」について、スクールソーシャルワークという視点でお話いただきました。幼稚園・専門機関の先生方が参加され、親子そして家族をどのように捉えるか、保護者と具体的にどのようなようにやりとりするか等を、学び合うことができました。今後も、ニーズに即した話題を提供し、研修会を実施していく予定です。

それとは別に、月に1回、夕方の時間に、予約なしで相談や事例検討を実施する「楽々の実」という勉強会を無料で開催しています。地域の園や学校の先生をはじめ、専門機関の先生方に、相談室に入室していただき、抱えている困難な事例やちょっとした悩みを話してもらい、参加者全員で考えるところです。

「楽々の実」は「話して、楽に、明日の仕事が少し

でも、楽しく、話し合うことで、実になる」といったコンセプトで進めています。先回は、地域の幼稚園の先生方に入室頂き、気がかりな事例について、話し合いました。

研修会や勉強会が、今後、地域の専門職の方々につながる場となり、それぞれがスムーズに連携できるようになる、そのように機能していけるよう目指していきたいと思えます。

今後の課題と支援の方向性について

小平市を中心とした地域では、子どもの発達支援や保護者支援に関わるシステムが充実しています。白梅学園大学の発達・教育相談室は、そのシステムをバックアップするような姿勢で、その具体的な支援内容を模索していくことが課題です。そのため、何をどのように支援できるかを探るため、アンケートという形で幼稚園や保育園の先生方にさらに詳しいニーズをお聞きして行く予定です。この調査結果は相談室の支援の在り方を考えるだけでなく、地域にフィードバックし、各専門機関の方々が全体のニーズとその内容を知ること、それぞれの支援に役立つものにしてほしいと思っています。また、共同研究という形で、園の先生方と一緒に、より学び深い研修方法を探り、具体化し

ていくことを企画しています。なお、訪問型の相談は、地域を拡大して、実施していきます。

来年度はさらに新しい取り組みを2つ考えています。ひとつめは、福丸由佳教授に協力して頂き、ご専門の研究分野であるCareプログラムを実施していただく予定です。(ふたつめには音楽ムーヴメントを取り入れた親子のプログラムを杉山貴洋准教授のワークショップで2回、行う予定です。音楽に乗せて五感を刺激し、身体を動かす心地よさを知り、親子で楽しんで後に、保護者の方とグループワークをしていきます。ムーヴメント音楽療法については、明星大学の星山麻木教授をお招きし、相談員も参加して、進めていきます。

発達・教育相談室は開室して以来、多くの方々に支えていただきながら、前進しております。ここで厚く御礼を申し上げるとともに、今後ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

引用文献

木原久美子2006巡回相談はどのように障害児統合保育を支援するか・発達臨床コンサルテーションの支援モデル・帝京大学文学部教育学科紀要31-P P

31-39